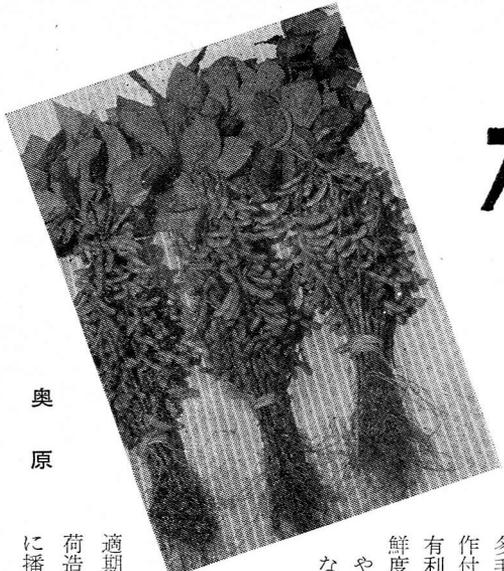


有利な枝豆栽培 東京近郊に伸びる

中原 忠 夫



奥原

枝豆は昔から、食味が大衆向きな上に、栄養価も高く、お盆や十五夜などの行事の必需品としてはもちろん、初夏から秋にかけて賞味されてきた。現在ビールのツマミとして、ビールの消費増にもない需要は増し、しかも周年消費されるようになってきた。

東京市場の需給状況を見ると七、八、九月の入荷量が多く、次いで六、一〇月の順となっており、一月から翌年の五月迄の入荷量は少ない。価格は栽培のむずかしい三月頃最も高いが消費量は少ない。一月から五月迄は温暖な静岡に依存しており、六月から九月にかけての生産は東京、埼玉、千葉もので殆んど占められている。

枝豆は経営上、高反収を望めず有利な作物とはいえないが、肥料や薬剤が少なくすみ、栽培管理も容易で労力もかからない。土地に余裕のある近郊園芸地帯では、多毛作の作付体系に組入れ、一種の休閑的作付の意味と、地力増進に役だてるため、有利にとりあげられている。さらに枝豆は鮮度によって商品価値や、風味を左右されやすい。そこで新鮮度を示すために独特な荷姿で市場に出荷されている。初夏以降になると輸送物では新鮮さを保つことがむずかしく、近郊での生産が要求される。

枝豆栽培の労力は少なくすむといっても出荷にかなりかかる。収穫適期の幅が短かく、荷姿を整えるため、荷造り作業にあたる人員によって、一度に播く反別が決められ、播種間隔と、早中晩

品種の組合せ、作付総反別が決められる。

枝豆は温暖で多湿な気候を好み、開花結実にはしめり気のある重い土質の畑で成績がよく、乾燥するところでは莢つき悪く、子実数も少なくなる。しかも昼夜の温度差のある方が望ましく、最低温度の限界は一度C以上が必要とされている。昼夜とも高温で、多湿条件下では茎葉のみが繁茂して稔実を悪くし、莢、子実の太りも劣る。

品種

一般に大豆は感光性の程度により、感光性の低い、即ち、日長の長い時期に開花結実する品種（長日型＝夏大豆）と、早春に播いても日長がある程度短くならなければ開花結実しない品種（短日型＝秋大豆）とその中間型の三つに大別される。促成、早熟栽培用の極早生種、小袖、奥原一号や早生種の大袖振、白鳥は長日型で、中生枝豆、三河島などの中生種は中間型、九し一〇月に収穫される晩生系の地大豆は短日型に属する。

現在作られるいる品種の大半は夏大豆で、極早生種、早生種に対する関心は強い。ここで主要品種の特性概要をあげて見る。

イ 極早生種

○小袖振（吉岡中粒）草丈低く、着莢数少ないが極早生種として定評がある。子実は小粒、帯緑色でやや扁円、花色は紫、品質はやや良い。

○極早生奥原 坂本早生より約一週間、小袖振より一〇日以上早い弊社育成の超極早生種。草丈低く、着莢数は少ないが子実は大粒で品質は奥原に劣らない。

○上育十四号 弊社で育成し目下試作中のものので熟期は小袖より僅かに早い極早生種。草丈は奥原にちかい。莢はやや小型だが極めて莢つきの良い新品種。

○奥原一号 半促成、早熟栽培に最も定評のある極早生種で品質は申し分ないが、草丈の割にやや着莢少なく、感温性の高い品種である。

○新興原 奥原一号から莢つき良く、しかも三粒莢の多い系統を選抜育成したものである。

ロ 早生種

○大袖振（早生緑、吉岡大粒）むかしから枝豆の代表的品種として七月上旬出荷に用いられ、着莢多く、草姿すぐれ、品質も良い。子実は淡緑で大粒、早生緑、吉岡大粒、白鳥も本種から選抜された。

○白鳥 袖振より莢がやや大きく、子実粒も大きい。着莢性もすぐれ、草姿は一段と整っている。

○白雪 熟期、草姿は白鳥なみの早生種、莢は鮮緑で白毛、やや三粒莢は少ないが食味の良い有望種。

○上育五十八号 白鳥より熟期早く、草丈はやや低めだが草姿良く揃い、莢つきも多い。品質の良い奥原に白毛種を交配して育成した新種。莢は鮮緑で白花、白毛の早生種である。

ハ 中生種

○中生枝豆 七月下旬から八月にかけて出荷される品種で、草勢強く、分枝も多い。毛茸は白で大莢だが粒数は少ない。

○三河島 前者より改良されたもので、

第2表 品種比較 その二 (S.43 千葉農場)

品 種 名	開花 始 月 日	収穫 期 月 日	草丈 整性	草丈 cm	分枝 数 本	着莢 数 ケ	三粒 莢 ケ	三粒 割 ケ	総莢 重 %	食味
早 生 枝 豆	6. 19	7. 17	中	61	4.4	43	9	21	67	中 良
奥 原 枝 豆	22	17	ク	60	3.8	37	8	22	61	良
新 奥 原 枝 豆	22	17	ク	62	4.0	40	14	35	68	ク
早 生 緑 枝 豆	24	23	良	75	6.4	58	14	24	116	ク
大 袖 振 鳥	26	25	中 良	73	6.2	67	17	25	146	中 良
白 鳥 雪 島	26	26	良	77	6.4	54	10	18	106	ク
三 河 島	22	8. 3	ク	72	5.0	39	9	23	76	ク
	29	8. 3	ク	79	5.0	62	8	13	106	ク

播種期 5月2日 畦幅×株間 60×25cm

第1表 品種比較 その一 (S.43 上野幌育種場)

品 種 名	開花 始 月 日	収穫 期 月 日	草丈	変異 係数 %	分枝 数	着莢 数 ケ	三粒 莢 ケ	三粒 割 %	総莢 重 g	三粒莢 長 cm	幅 cm	毛茸色
極 早 生 奥 原 枝 豆	7.13	8. 7	51.5	11.2	224	7	8.5	34	—	5.20	1.28	褐
上 育 14 号	15	16	66.6	5.5	351	5	22.8	44	70.4	5.14	1.14	ク
奥 原 1 号	17	19	73.8	6.9	441	5	19.5	47	65.3	5.48	1.24	ク
新 奥 原 枝 豆	17	19	72.8	8.2	445	2	21.4	47	78.7	5.58	1.22	ク
上 育 58 号	21	26	73.5	4.0	348	1	113.3	28	83.5	5.52	1.23	白
白 雪 島	19	17	4.0	12.6	349	0	16.8	34	95.3	6.08	1.28	ク
早 生 緑 枝 豆	25	6	84.1	6.6	345	4	23.0	51	68.6	5.75	1.29	褐
白 鳥 雪 島	24	3	79.5	3.2	445	3	23.9	53	94.8	6.28	1.32	ク

播種期 5月26日 畦幅×株間 50×15cm 1本立

着莢数も多く大莢だが三粒莢は少ない。品質良く、中生系の代表種。

以上代表品種と有望品種をあげたがここで枝豆用品種として具うべき必要な条件を整理して見ると、

- 一 早生であること。
- 二 葉、莢が鮮緑であること。
- 三 大粒で粒揃いの良いこと。
- 四 莢は大きく、三粒莢割合の高いこと。
- 五 着莢多く、しかも密につくこと。
- 六 味の良いこと。
- 七 毛茸少なく、色は茶褐色より白毛の方が好ましい。

枝豆種子は晩生種を除いて殆んど北海道で生産されている。北海道は大豆の結実期の温度が高くないから成熟までゆっくり進められることと、昼夜間の温度差が、充実を良くし、粒を太らせる。北海道産種子は発芽が良く、特に低温時の直播の場合に明らかな差がみとめられ、生育、収量も良好である。

栽培法

東京近郊の栽培様式 早出しものは温暖な静岡に依存しており、五月〜六月上旬出荷の半促成栽培も極く一部で行なわれているにすぎない。栽培の主体は早熟栽培に於て第四表のように地区によって栽培様式は多少異なるが、各地とも出荷の目標を最も必要の多い七月の新盆においている。

早熟栽培型と八月〜九月出荷の露地栽培型を含めて作付品種の組合せは地区により異なり、栽培の歴史、地力、栽培や荷造り技術を示している興味がある。足立区や南

第3表 東京近郊の栽培様式

栽培型	播種	定植	収穫期	品 種	備 考
半促成栽培	2下~3上	3 下	5中~6上	魁, 奥原	温床育苗 (トンネル), 床苗 (いす)
早熟栽培	3上~4上	3下~4中	6下~7上	奥原, 大袖	冷床育苗, 露地定植
露地栽培	5上~6上	直 播	8上~9中	大袖, 三河島	

第4表 地区別の早熟栽培様式

地区	播種方法	播種期	定植期	畦幅×株間	仕立法	前 作	後 作
足立区	冷床	3.10 苗床日数20日	3.25~30	33×10	1 本	なし	カンランソウ, カンランソウ, カンランソウ
南埼玉	冷床	3.10 苗床日数30日	4. 10	33×10	1 本	なし	カンランソウ, カンランソウ
松 戸	直播	3.20(奥原), 4.15(大袖系)	—	60×10	2~3 本	カンランソウ	ミノ早生, 外

註 播種期は奥原の最も早い時期を示し、各地区とも7~10日間隔で順次播種する。大袖系は奥原より10~20日後から播き始める。

わりには、生育期間短かいので元肥主体にし、施肥例から見ると、一〇%当たり成分量でチンソ(五七五)、リンサン(七七八)、カリ(七一一)が施されており、中晩生種は二

一、二枚展開したところで定植する。枝豆は移植を嫌うので根を傷めぬよう丁寧に。普通早熟栽培の場合定植後トンネルなどは使わない。年によって三月下旬降霜の被害をうけることもある。松戸などの早期直播栽培では前作のコカブに使われた覆下を利用して、播く場合もあるが、多くは露地に直播される。



収穫適期の白鳥 (移植苗) 南埼玉



奥原の荷造り作業

三割方多く施す。
収穫と荷造り
 枝豆の収穫適期は短かく、収穫がおけると莢の色が褪せ、子実がかたくなりすぎて食味がおちる。また、出荷を急いで早どりすると収量少なく、風味も良くない。収穫の適期は殆どどの莢が充実し、僅かに先端部に未熟莢の残る頃が良い。
 収穫は普通根をつけたまま抜き取り、根の土を落して荷造りにかかる。



収穫適期の奥原（直播）松戸

荷造りの要領は先端の傷みがなく色の良い葉を二〜三枚残して他の葉をつみとり、莢が外を向くようにして束ねる。束ねる本数は出荷時期、出荷市場、価格によってことなり、例えば促成物では一束一五莢、葉根をつけ大体三本を束ねて一束とし、二〇束を一箱として出荷している。四月頃は二〇莢、六月から七月上旬は二五〜五〇莢で



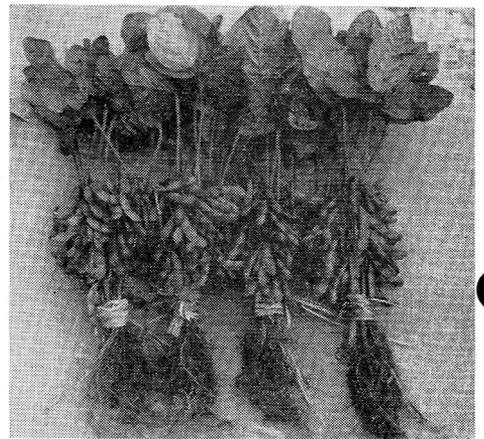
洗い場にて水洗い

一束とする。しかし同じ時期でも産地、出荷場所によって、第五表の様に異なっている。束ねたものは洗い場にてブラシで洗って水を切り出荷する。この様に手間のかかる荷造りは、一日二〜三人の家族の間で普通二〇〇束が標準とされている。七月上旬頃の二〇〇束は約一畝の収穫量ぐらゐに

第5表 枝豆の草姿と出荷方法（品種白鳥7月上旬）

地 区	草丈 cm	1株 着莢数 ヶ	1本 束数 本	荷 造 方 法		備 考
				葉	根	
南 埼 玉	30	3~4	7~8	1株3枚	残す	中央市場出荷
足 立 区	45	10~15	5~6	同上	〃	〃
松 戸	60	20~30	15~16	とる	〃	地場消費

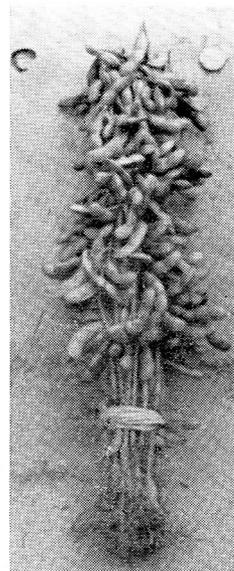
註 南埼玉、足立では1粒莢をとり除いて束ねる。
 荷姿は地区により違っているが、1束単価は同じ位になる。



束ねられた白鳥（埼玉）1束が7~8本



神田市場の枝豆



葉を落し1束15~6本の荷姿

なる。
 収量は栽培法、品種、作柄によって様でないが、白鳥で一〇ヶ当り二、〇〇〇〜二、五〇〇束、一般に一・八湯（二升）まいていくら上ったかということが話題になる。
 （雪印種苗上野幌育種場）
 註 第二表で千葉農場とあるのは千葉市、長沼原町、雪印種苗草地酪農研究農場のことです。